

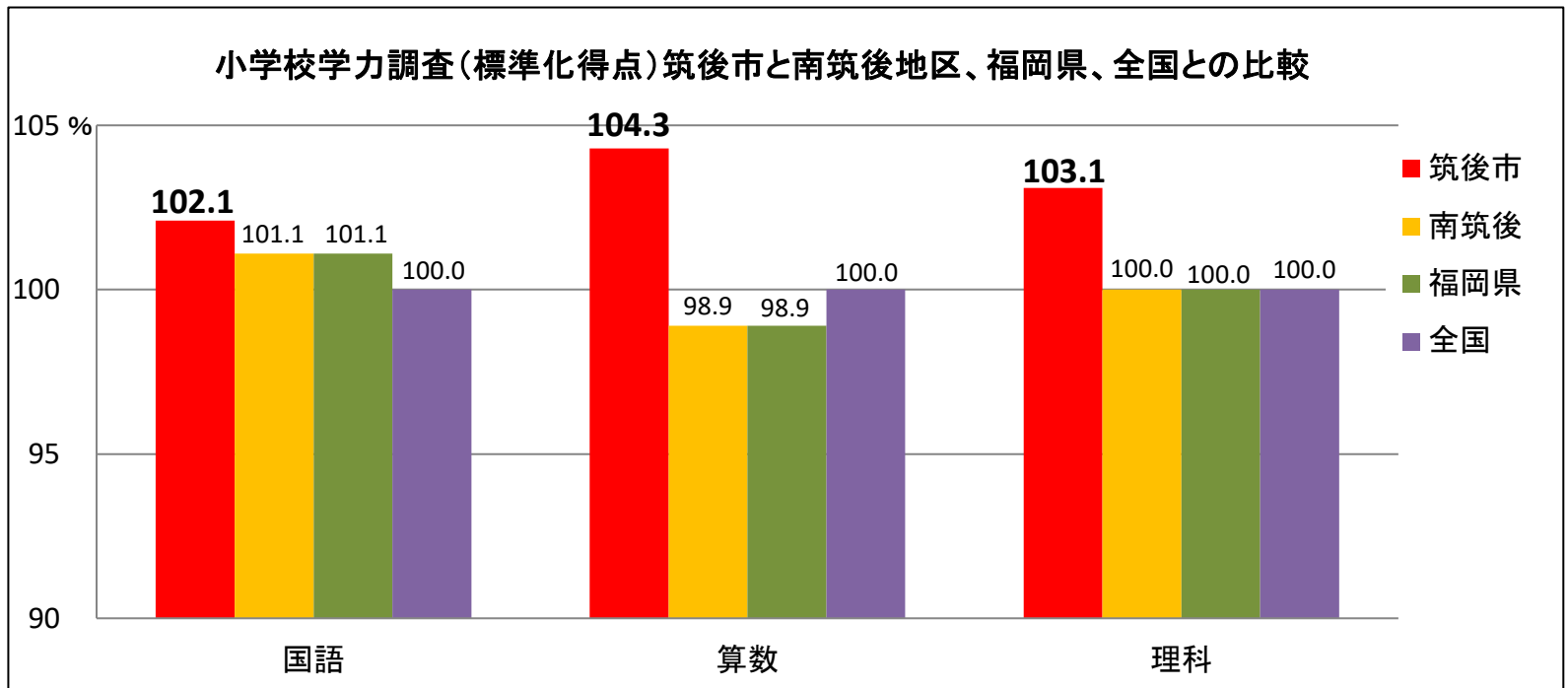
令和7年度 全国学力・学習状況調査結果報告

1 全国学力・学習状況調査の概要

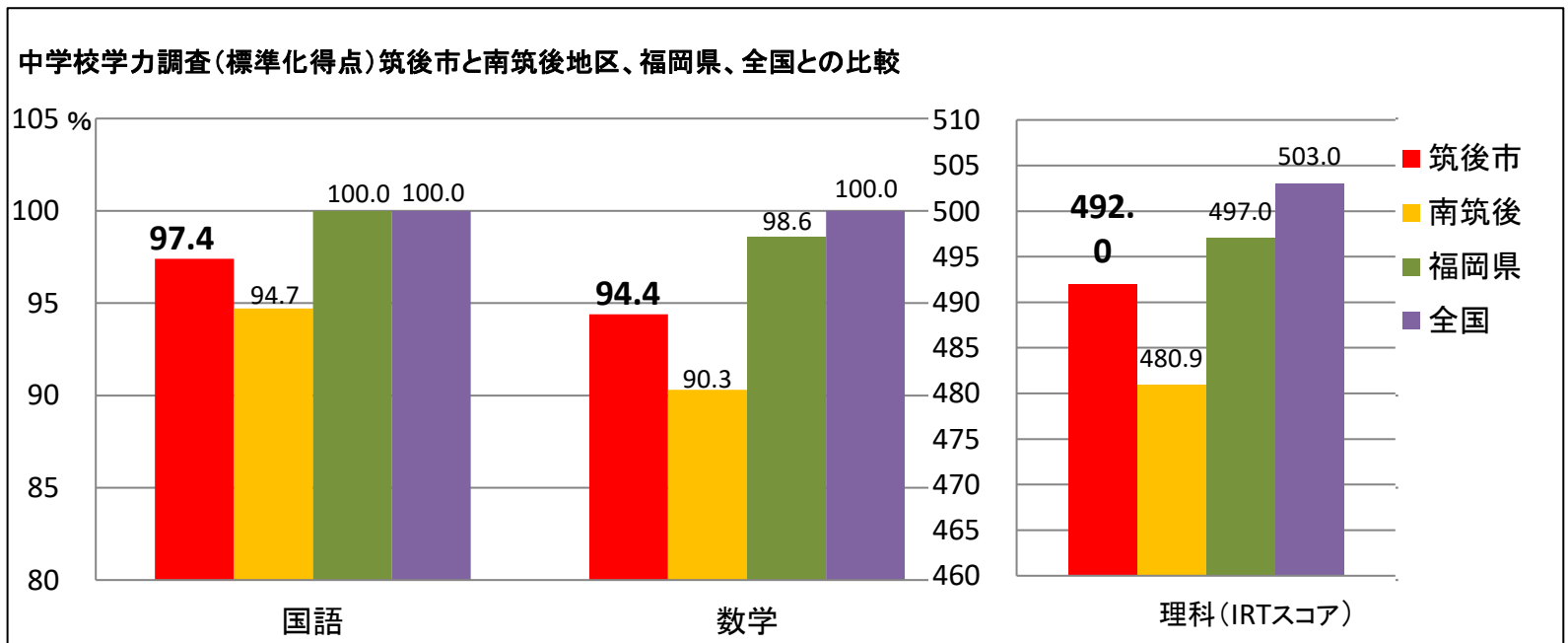
- 調査期日：令和7年4月17日（木）
- 調査対象：小学6年生児童（446人）及び中学3年生生徒（394人）
- 調査事項：① 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
※平成31年度から「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式で実施されている。
※理科のみIRTを用いたCBT方式
- ② 質問紙調査（学習面及び生活面に関するアンケート）

2 小学6年生の状況

※標準化得点とは、全国の平均正答数を100とした時の各地区の平均正答数の割合をパーセントで表したものです。
※南筑後地区とは、南筑後教育事務所が管轄する6市2町のことです。



3 中学3年生の状況



小学6年生の標準化得点は、全教科において全国、福岡県、南筑後地区を上回る結果となりました。
中学3年生の標準化得点は、全教科において南筑後地区を上回りましたが、全国、福岡県まであと数ポイントという結果となりました。
中学校理科はCBT方式（コンピュータベースドテスト）での実施となり、500を基準としたスコアで表示しています。

4 各学校での取組

市内の小・中学校では、学力の向上に向けて以下のような取組を実施しています。

- 1 学習のめあて達成に向けて見通しと振り返りを重視した授業づくりを行い、児童・生徒が自分の考えを表現できるように努めている。
- 2 一人一台端末等のICTを効果的に活用している。また、複数の教師で授業を行うチーム・ティーチングや習熟度別・課題別等少人数指導により、個別の課題把握を行うなど、指導の充実を図っている。
- 3 基礎的・基本的な内容の定着、学習したことを活用する力の育成をめざして、朝や昼の帯時間を活用したり、電子ドリルを活用した個に応じた指導を行ったりして、学力補充に努めている。
- 4 小中連携の推進の中で小学校と中学校で授業等を公開し合い、指導方法の共通実践等を通して授業力の向上を図っている。
- 5 学力調査等を分析すると同時に、日常の授業の見取りを基にして学力向上プランを作成し、検証改善サイクルの実施に努めている。
- 6 計画的に読書時間を確保したり、読み聞かせを行ったりして、読書活動の推進を図っている。
- 7 家庭学習の進め方について、学校全体で指導を行っている。

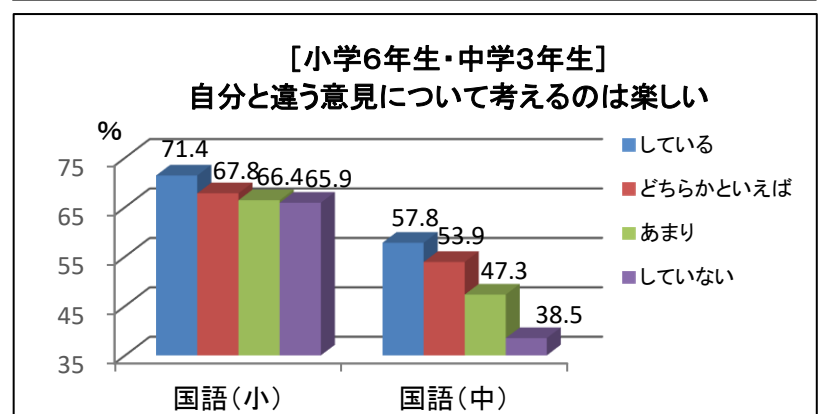
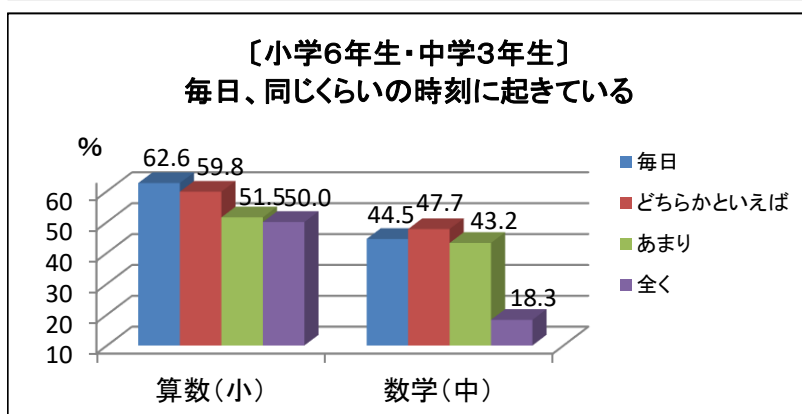
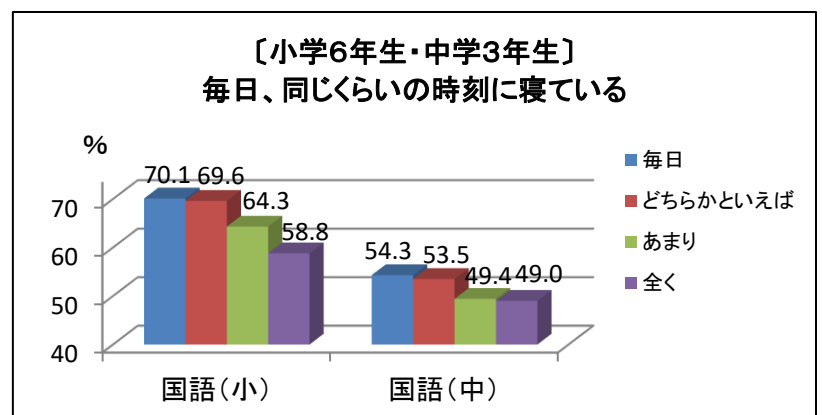
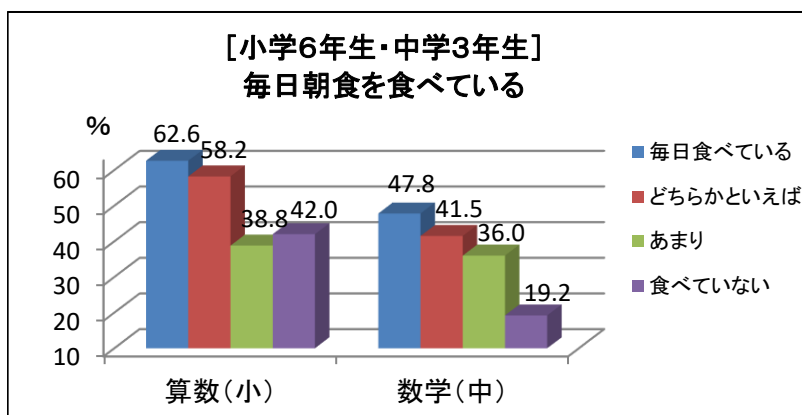
5 教育委員会としての取組

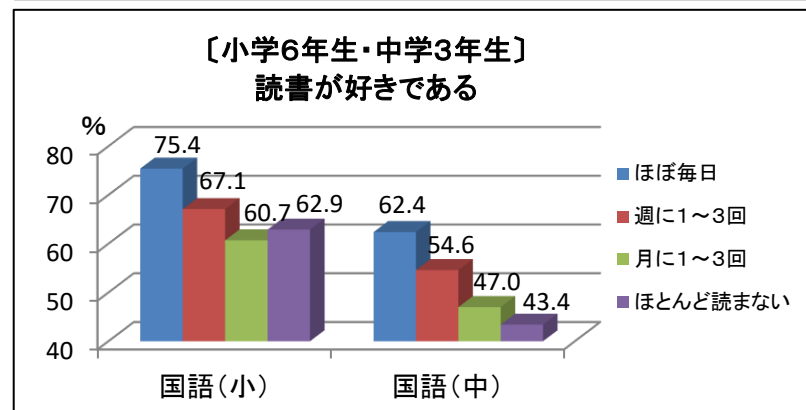
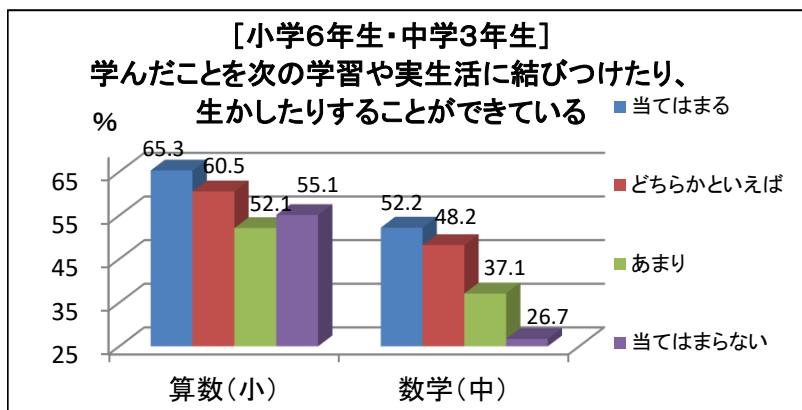
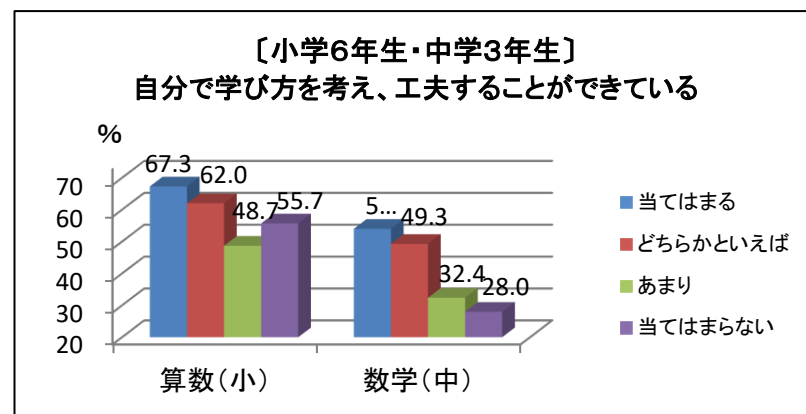
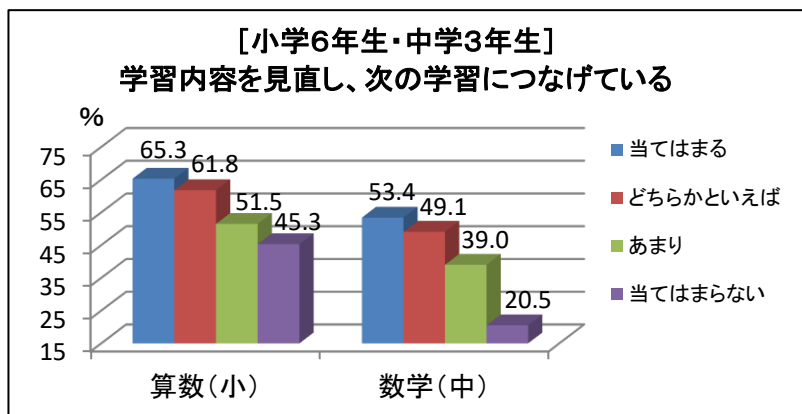
- 一人一台端末を効果的に活用したICT活用実践モデル授業の公開
- 電子ドリル教材の活用、Wi-Fi環境の整備、大型モニターの設置、コンピューター運用支援員の全校派遣
- 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり研修会の実施（モデル教員の指定）
- 小学校と中学校の連携の推進（市及び各中学校ブロックの推進委員会の開催等）
- 児童・生徒一人一人の個の特性や家庭の様子等を把握し、関係機関へ繋ぐスクールソーシャルワーカーや、一人一人の心に寄り添うスクールカウンセラーの適切な配置
- 市内全ての小学校6年生外国語科における専科指導教員の配置
- 児童の体力向上と小学校体育の授業力向上を支援する指導主事の派遣
- 市内の全ての児童・生徒の学力向上に向け、教育委員会事務局と校長会が協議し、共通理解を図る学力向上推進委員会の開催
- 各種学力調査及び児童生徒質問紙の分析と課題解決に向けた取組の啓発（リーフレット「子供の健やかな成長のための4提言」発行、ホームページの掲載等）
- 将来の夢に向けた進路意識を育てるキャリア教育の推進

6 質問紙調査(学習及び生活等アンケート)からみえる課題と対策

以下に示しているグラフは、児童生徒質問紙で回答した選択肢ごとの平均正答率を示しています。

左下のグラフを例にしてみると、中学校数学のテストにおいて、毎日朝食を食べている生徒の平均正答率が47.8%（青のグラフ）なのに対して、全く食べていない生徒の平均正答率は19.2%（紫のグラフ）という結果を示しています。





このグラフのように、質問紙調査（学習及び生活等に関するアンケート）と学力調査（平均正答率）を関連付けますと、児童・生徒の学力は、家庭の学習や生活の様子と関係が大きいことが分かります。調査結果から、家庭と学校が連携して取り組む大切なポイントとして次の4点が明らかになりました。

1 規則正しい生活習慣の定着

毎日朝食を食べている、毎日同じくらいの時刻に寝ている、毎日同じくらいの時刻に起きている児童・生徒の方が平均正答率が高いという結果が出ています。規則正しい生活を送ることは、健康な心や体を育む上で大切であり、学力にもよい影響を与えるということです。近年、睡眠の重要性が叫ばれています。睡眠時間が不足したり、就寝・起床時刻がバラバラになったりして体のリズムが乱れると、思考力や集中力を低下させると言われています。朝食を摂り、決まった時刻に就寝・起床する習慣を心がけることで、学力のさらなる向上も期待できます。各家庭で規則正しい生活にするための一手を考え、健康的な生活につなげることを通して、学力の向上も目指していきましょう。

2 学習内容を振り返る習慣の定着

学習内容を自分の力で調べたり、学習した内容を振り返って整理したりする程、学力向上に繋がっていることが分かります。中学校においては予習や復習にあたります。また、家庭学習については、「子供の健やかな成長のための4提言（筑後市教育委員会作成）」を参考にするなどして、自分で学習の計画を立てて取り組む習慣をつけることも大切です。その際、保護者が児童・生徒の頑張りを褒めたり、応援したりすることも、児童・生徒の学習意欲を高めることにつながりますので、学校と家庭が連携しながら励ましの声掛けをしていきましょう。

3 自ら学ぶことに対する意欲を賞賛

普段から周りの人と肯定的なコミュニケーションをとることは、児童・生徒の心身の健全な成長のために大切であると言われています。家庭での会話を通して、児童・生徒は、学習や生活での自分の姿や気持ちを保護者に受け入れられたと感じるようになります。また、褒められたり応援されたりすることは、学習や規則正しい生活等に取り組もうとする意欲を一層高めます。アンケート結果から地域や社会に関心をもつことも大切であることが明らかになりました。学校や日常の出来事、将来の夢や目標、地域や社会で起こっている出来事などについて親子で話をする時間を設けましょう。

4 活字を読むことの習慣化

主体的に活字を読むことは多くの知識を得るだけでなく、文章を読み取る力を付けることにつながります。また、人物についての記事や伝記を読むことを通して人の生き方や考え方等に触れることは、将来の展望をもつことにつながり、進路を考えていく上でもよい影響を与えることができるのではないかと考えます。学校でも読書に親しむ取組をしています。家庭でも、親子で読書をしたり、新聞で読んだ内容をもとに語り合ったりする時間を設けましょう。